

研修医の手記

石井 智佳子



はじめまして。4月より釧路市立総合病院で研修をさせていただいております石井智佳子と申します。子供のころに数年間、道東に住んでいたことがあり、12年ぶりに懐かしい土地に戻ってまいりました。

私が当院にて研修をしたいと思った理由に、この病院の特性がありました。釧路、根室地域のプライマリケアのみならず、高度先進医療も行われていること。重症の救急患者さんも受け入れる3次救急指定病院となっていること。ヘリコプターによる、救急車では搬送に時間を要するような地域からも患者さんを受け入

れていることなどです。毎日毎日、学ぶべきことにあふれ、忙しくも充実した研修生活を送っております。

当院へ来院されている方々には、まだまだ勉強不足でご迷惑、ご心配をおかけしていることと思います。しかし、時に厳しく、熱心に指導して下さる指導医の先生方や先輩医師、ともに切磋琢磨しあう研修医仲間、いつも優しく見守り、助けでくださるメディカルスタッフに囲まれながら、多くの方々の役に立てる医師を目指し、日々努力を重ねております。至らぬ点多くございますが、来院されている方々にも院内でお目にかかった際には、ご指導、ご鞭撻をいただければと思っています。どうぞよろしくお願い申し上げます。

エキスパートナース紹介

Part.7

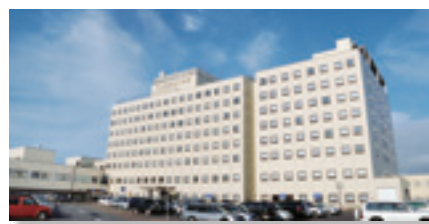


今年7月に認定審査に合格し、がん化学療法看護認定看護師の資格を取得しました。現在は化学療法室に所属し、スタッフ6名中認定看護師が私を含め2名、その他がん薬物療法認定薬剤師が1名おります。

近年、がん化学療法の対象となる患者さんが増加し、当院においても外来化学療法患者数が増加しているのが現状です。がん治療は日進月歩であり、分子標的薬や新規抗がん剤、新規治療法が導入され、がん治療は複雑化しております。中でも分子標的薬による副作用のマネジメントは重要です。副作用で治療を断念するのではなく、症状をマネジメントし治療を継続していくことが目標となります。このような中で日々、医師、薬剤師と情報交換を図りながら、個別性に合わせた副作用対策やセルフケア支援を行っております。今後も、患者さんとそのご家族が、安心・安全・安楽に化学療法を受けることができ、日常生活を送りながら“自分らしさ”を失わず、治療を継続できるよう、Quality of Lifeの維持・向上に努めていきたいと思っております。そして、患者さんが安心して治療に望むことができるよう、スタッフ教育にも力を入れ取り組んでいきたいと考えております。

認定看護師には、実践・指導・相談の3つの役割があり、どれにおいても未熟者ですが、自分には何なのかを考え、一つ一つ丁寧に取り組んでいきたいと思っております。また、日々周りのスタッフに支えていただいていることに感謝する姿勢を忘れず、自己成長できるよう努めていきたいと思っております。

がん化学療法看護認定看護師 田中 秀子



市立釧路総合病院 医療連携相談室

〒085-0822 釧路市春湖台1番12号

TEL(0154)41-6121・FAX(0154)41-6511



第14号：平成25年12月6日発行

ごあいさつ



医療連携室室長・副院長

阿部 敬

今年も初霜の季節を迎えました。

皆様には日頃より大変お世話になっておりまして心より感謝申し上げます。

さて、当地域でも医療をめぐる環境は依然厳しいものがございます。なかでも現場の人手不足の問題はいまだ深刻であります。

北海道保健統計年報によりますと平成22年12月末現在、人口10万人当たりの医師数は釧路管内では162.9人、根室管内では96.8人と全道平均の229.0人をかなり下回っております。

医師不足につきましては、養成数抑制の影響、医療需要の増加、地域偏在、診療科偏在、勤務医の過重な勤務負担、新医師臨床研修制度による大学の医師派遣機能低下など多岐にわたる要因が指摘されておるところです。

このような中、医療崩壊を阻止し地域医療を守るために、当地域全体での医療連携のさらなる充実が必須であると考えております。各機関の機能分担など現在の限られた医療資源の有効な活用に向け、皆様には今後もご理解とご協力をお願い申し上げます。

なお本号では先日運用開始になりました電子カルテの状況や、がんサロンの紹介などをお届け致します。

最後になりましたが皆様のご健勝とご盛業を祈念申し上げます。

理念「信頼と満足の創造」

経営方針

- 十分な説明のもとに患者様の意思を尊重し、患者様中心の医療を行います。
- 地域完結医療を目指し、高度医療・救急医療を充実します。
- 地域医療を支援するため、病診連携を密にします。
- 心温かな質の高い医療サービスを実践するため、日々研鑽します。
- 良識と協調性のある医療人として、意欲と誇りの持てる職場環境づくりに努めます。

電子カルテ導入への道のり

副院長
IT高度化検討委員会委員長 長谷川 直人



H25年10月14日 当院での電子カルテが稼働開始となりました。

当院ではすでにオーダーリングとして処方、注射、放射線オーダーおよびPACSなど電子化されておりましたので、診療録などの文書、

指示、処置オーダーなどが追加となりました。しかし電子カルテ導入で従来の紙カルテという有形の存在がなくなることは大変な業務上の意識変革となります。

導入後の状況は初日を祝日としたことにより、初日の外来業務は救急外来のみの対応となり大きな混乱はありませんでした。しかし10月15日からは本格的な外来業務が開始されましたので、どんなことになるのかヒヤヒヤものでした。さすがに外来業務初日にはベンダーなどへの問い合わせは140件ほどありましたが、翌日以降は50件以下と漸減していき、1週間後には問い合わせはなくなりました。患者様の予約を控えたこともあり、思いのほか混乱はなかった印象です。これも職員の皆さんが部門ごとのリハーサル練習を重ねてきたこと、および前日の外来職員総出勤でのリハーサルの成果が効果的であったと感謝しております。

一方病棟業務、部門業務はある程度時間に追われないことから1、2週間の猶予をもって電子カルテに移行する計画でしたが、現場のほう素早く対応していただき1週間後にはほぼ電子カルテに移行していただきました。現在も運用を中心として改善が必要な部分はありますが、電子カルテ導入はスムーズに行われたものと思っております。

しかしここまでの下準備はなかなか大変なものでした。各部門の皆さんが大変な努力をもって稼働準備していただいたものと思われま

す。電子カルテ導入の準備はH24年6月に始まりま

した。IT高度化委員会なるものを立ち上げ、各部門の意見を集約することにしました。また当院はすでに富士通のオーダーリングが運用しておりましたが、現場の意見もありベンダー変更も含めたベンダーの選定も始まりました。そこで情報収集が必要となり電子カルテ導入病院の見学を行うことになり、旭川日赤、室蘭市立、砂川市立、函館市立、函館中央、函館五稜郭、苫小牧王子など多数の病院の皆様にお世話になりました。さらに手術部門、ICU、文書管理などのシステムの導入のために医療情報学会、マネジメント学会などで最新のシステムの情報を収集し、そこで見学した部門システムの会社の方には釧路までデモをお願いして来ていただきました。(多くは採用になりませんでした。)そしてH24年12月に富士通の電子カルテ導入を審査会にて決定いたしました。

ベンダーが決定してからはベンダー主導によるワーキンググループでのマスター、運用の設定が半年以上かけて行われました。ここで委員会では小回りがきかないことから、8名ほどのITコアスタッフを結成して対応を図りました。ベンダーによる操作研修は医師、看護師および各部門で開催されました。しかし研修が不十分ではないかとの意見もあり、研修ビデオの作成、配布そして各部門による自己学習のスケジュール設定を行い看護師、クラークなどの練習の場を設けました。導入が迫ってくると操作への不安の声があり、医師には少人数による研修を独自に行い、また外来の隅には模擬外来システムを設置して運用を含めた操作研修を行って頂きました。このような差し迫った職員の一致団結した努力により電子カルテ導入が比較的良好に行えたものと感謝いたします。

最後になりましたが、患者様の受診調整、救急当番の調整などで各医療機関の皆様にはご迷惑をおかけしたことをこの場を借りてお詫びし、感謝いたします。

医療コンシェルジュを紹介します

10月1日から総合案内(1階)に医療コンシェルジュを配置しました。医療コンシェルジュとは、患者さんの不安を軽減し気持ちよく受診いただくために、フロア内をラウンドしながら積極的に患者さんへお声かけを行い、院内での案内や誘導、各種説明を行うワンランク上のサービスを目指す最近注目されている医療サービスです。

当院では医療コンシェルジュのコンセプトとして、

1. ホスピタリティあふれる、上級の接遇で患者さんをお迎えます。
2. 患者さんのお気持ちに配慮したきめ細やかなサービスを提供します。
3. 患者さんの立場に立った、院内改善に努めます。

の3点を掲げ、月曜日から金曜日(午前8時~午後3時)まで院内のご案内、各種のお問い合わせに対応しております。

市立釧路総合病院の顔として、心のこもった暖かい接遇に努め、地域の患者さんからより一層親しまれる病院となりますよう努めてまいりますので、院内で何かお困りごとがございましたら、どうぞお気軽に「医療コンシェルジュ」にお声をおかけください。



がん患者サポートサロンを開催しています

本年度7月からがん患者さんやそのご家族の方の交流の場として、がん患者サポートサロン「さんきゅうカフェ」を隔月で開催しています。

毎回数名の方が参加され、患者さんご自身の思いや治療を支えるご家族の思いを話されています。参加された方々のお話を聞きながら私達相談員も多くの勉強をさせて頂いています。時には相談室へのお叱りであったりもします。真摯に受け止め日々の業務に反映させたいと思っています。

現在、当院には専用の部屋がありませんのでホスピタルホールや栄養相談室を利用しながらの開催です。手狭であったり落ち着かない事もあるかと思いますが、ぜひご利用いただきますようご案内いたします。

